

インターネットによる地理学界の情報コミュニケーション ——「歴史地理学メーリングリスト」への投稿の分析——

小 田 匡 保*

要 旨

本稿は、インターネットによる地理学界の情報コミュニケーションのうち「歴史地理学メーリングリスト」(以下、MLHG)を取り上げ、その概要を紹介し、投稿の分析を行なう。MLHGは、2002年1月、複数の若手歴史地理学研究者によってつくられた。メンバー数(登録アドレス数)は、2014年4月時点で153名であった。正式発足から2014年3月までの投稿数は約6300通であり、抽出した694件を分析した結果は次のとおりである。投稿内容は博物館展示関係が最も多く、3割以上を占め、単行本関係、学会・研究会関係、雑誌関係と続く。投稿内容を、地理学全般のメーリングリストchiriと比較すると、職務としての投稿が多いchiriでは、学会・研究会などのイベントの関係者が、そのPRを行なうものが目立つのに対して、ほとんどが第三者のボランティアな情報提供であるMLHGは、投稿者の研究関心に基づいていると言える。投稿者については、特定の1メンバーの投稿に大きく依存している点の特徴である。MLHGの投稿内容の傾向は、このメンバーの研究関心を反映している。MLHGを含め、インターネット上の情報コミュニケーションを今後の地理学史研究の対象として想定した場合、課題は、ウェブ上のデータをいかに保存できるか(アーカイブ化できるか)ということである。

キーワード: 歴史地理学, メーリングリスト, インターネット, アーカイブ化

I. はじめに

現代社会のさまざまなコミュニティと同様、日本の地理学界においても、インターネットによるコミュニケーションが行なわれている。ウェブサイトによる情報発信やメーリングリストなどによる情報交換は、1990年代後半からさかんになり、近年は、フェイスブックやツイッターなどのいわゆるソーシャル・ネットワークワーキング・サービスが多用されていることは周知のとおりである。地理学関係のメーリングリストとしては、「日本地理学会試行メーリングリスト(chiri)」¹⁾や山田晴通氏運営の「geoメーリングリスト」²⁾が知られているが、歴史

地理学関係のものとして「歴史地理学メーリングリスト」がある。本稿は、「歴史地理学メーリングリスト」(以下、MLHG)の概要を紹介し、投稿の分析を行なう。最後に、今後の地理学史研究の対象として想定した場合の課題を提示する。

II. 歴史地理学メーリングリストの概要

MLHGは、2002年1月11日、複数の若手歴史地理学研究者によって立ち上げられた。その前段階として、12名³⁾からなる準備グループのメーリングリストが、2001年11月29日につくられ、それが正式のMLHGに移行した形と

* 駒澤大学地理学教室

なっている。MLHGのウェブサイトは、最初は「eGroups」(eグループ)を利用し、「eGroups」が2004年に「Yahoo!グループ」へ模様替えした後は、それが使われていた⁴⁾。しかし、2013年12月に、「Yahoo!グループ」サービスが5月28日に終了することがアナウンスされ、2014年2月28日に、代替のグループウェアである「Googleグループ」に引っ越して現在に至っている⁵⁾。管理者は、発足以来ずっと上杉和央氏が務めていたが、2013年に塚本章宏氏に交代した。

メンバー数は、Yahoo!グループ時最後の2014年4月時点で153名であった⁶⁾。ただし、これは正確にはMLHGに登録されていたアドレスの数であり、同一人物が複数のアドレスに登録していた可能性もある。また、使われているとは思われないアドレスが残っており(たとえば、死去したメンバーのアドレス)、実際のメンバー数は153名より若干少なかったと考えられる。筆者は、MLHGの立ち上げには関わっていないが、2002年1月11日の正式発足当日からMLHGに参加している。

メンバーの身元は、投稿者以外にも、アドレスからいくらかは特定できるが、正確な把握は不可能である。その原因は、メーリングリストへの参加手続きにある。MLHGへの参加は、管理者に直接、あるいは紹介者を通じて、アドレス登録を依頼することもあったが、Yahoo!グループでは、管理者の承認がなくても、希望者が自由に参加・脱退できる設定にしていた⁷⁾(現在のGoogleグループでは不可)。その場合のメンバーの身元は、管理者でも特定できない。管理者を長く務めた上杉氏の印象では、大学院生も含めた研究者の割合は70~80%くらいではないかということであるが、正確なところは不明である。ただし、現役の大学教員や大学院生以外にも、元大学院生や関連業界、地理愛好家など歴史地理学界の周辺の人々がある

程度含まれているのは確かである。

MLHGは、歴史地理学という限定された分野であるがゆえに、地理学全般のメーリングリストである「chiri」や「geo」に比べると、認知度が低いであろうが、隠された存在というわけではない。日本地理学会のウェブサイトからリンクがはられ⁸⁾、月刊誌『地理』でも紹介されたことがある⁹⁾。また投稿内容についても、二村ほか(2012: 245)はMLHGの議論を引用しており、『人文地理』の「学界展望」でも紹介されている(長谷川 2007: 59)。印刷物やウェブ上で公表されたものでなくても、私信や口頭でMLHGの話題を個人的に聞くこともあり、また筆者自身もMLHGの情報が役立ったことも少なくない。MLHGは、地理学界に、ある程度の影響を及ぼしてきたと考えられる。

III. 投稿の分析

本章では、2002年1月のMLHG正式発足から、2014年2~3月のGoogleグループ移行までのMLHGの投稿を分析する。この時期のMLHGの投稿は、かつてはYahoo!グループのMLHGサイトにログインすれば、削除されていない限りメンバーは見る事ができたが、Yahoo!グループのウェブサイトが消滅したために、現在では閲覧不可能である。筆者はYahoo!グループ終了前に過去の投稿を保存しており、本稿ではこれを利用する。

まず、投稿数を確認する。eGroupsとYahoo!グループでの投稿には、ウェブサイト上で通し番号が自動的に付けられており、MLHGの正式発足をアナウンスする投稿は、2002年1月11日のNo.75であった。また、Yahoo!グループ時のMLHG最後の投稿は、2014年3月28日のNo.6345であった。単純に差し引き計算をすると、12年余りの間に6271件(1日平均1~2件)の投稿があったことになる。ただし、中には送

信ミスなど、純粹の投稿とは言えないものもわずかに含まれている。

投稿数の年別推移は、表1のとおりである。多い年は800件近く、少ない年は300件を少し上回る程度で(2014年を除く)2倍以上の開きがあるが、増減の顕著な傾向は見られない。

以下、投稿の分析にあたって、6000件以上のメールの内容を検討するのは大変であるため、投稿番号1000番ごとに100件の投稿を抽出し、分析対象とする(準備グループ時のメールが74番までである最初だけ、101~200番の100件とする)。送信ミス関係のメールは除いたため、分析したメールの総数は694件である。

表1. MLHG 投稿数の年別推移

年	投稿数	投稿番号	備考
2002	547	75~621	2002.1.11~
2003	350	622~971	
2004	380	972~1351	
2005	557	1352~1908	
2006	779	1909~2687	
2007	597	2688~3284	
2008	631	3285~3915	
2009	326	3916~4241	
2010	415	4242~4656	
2011	501	4657~5157	
2012	491	5158~5648	
2013	596	5649~6244	
2014	101	6245~6345	~2014.3.28

注: 送信ミス関係の投稿を含む

まず、投稿を内容別に集計する。投稿内容は、イベント紹介と研究成果物紹介の二つに大きく分かれる。イベントには、学会・研究会(シンポジウム・講演会・講座を含める)や博物館・資料館等の展示(図録の紹介を含める)、発掘調査の現地説明会(発掘成果のニュースを含める)などがある。一方、研究成果物には、単行本(書評の紹介を含める)や雑誌、ウェブサイトなどがある。内容別に集計した表2によれば、総数では博物館展示関係が最も多く、3割以上の約31%を占める。交通や旅、観光、都市などの歴史地理的事象や絵図や古地図、鳥瞰図などの資料は、博物館展示のテーマになることも少なくなく、歴史地理学研究者の関心をひくものであり、それが、博物館展示関係の投稿の多さに表れていると言える。投稿数第2位は単行本関係で約26%、第3位は学会・研究会関係で約16%、第4位は雑誌関係で約10%である。「その他」の中で多いのはメンバーの自己紹介で(16件、2.3%)、MLHGが発足してすぐの時期に見られる。それ以外は、ウェブサイトの紹介(10.5件)や文化財指定のニュース(9件)、訃報(6件)などである。初期には、広告メールをめぐる議論¹⁰⁾や、研究に関する質問と回答もあった。投稿内容の時期別推移を見ると(図1)、博物館展示関係の投

表2. 内容別投稿数

投稿番号	投稿日	博物館展示	学会・研究会	発掘調査	単行本	雑誌	その他	合計	備考
101~200	2002/1/17~3/2	10	14	2	13.5	21	35.5	96	送信ミス3とお詫び1を除く
1001~1100	2004/1/23~4/21	18.5	19.5	8	24.5	13	16.5	100	
2001~2100	2006/2/11~4/4	32	17	4	24	5	18	100	
3001~3100	2007/7/11~9/26	36	17.5	8	23.5	5.5	9.5	100	
4001~4100	2009/3/25~9/6	20	25.5	0	41	6.5	5	98	送信ミス1とお詫び1を除く
5001~5100	2011/10/5~11/28	60	8	0	22	7	3	100	
6001~6100	2013/7/30~10/18	40	11	0	29	10.5	9.5	100	
合計 (割合, %)		216.5 (31.2)	112.5 (16.2)	22 (3.2)	177.5 (25.6)	68.5 (9.9)	97 (14.0)	694 (100.0)	

注: 二つの内容が含まれている投稿の場合、0.5ずつにカウントしている。

注: 101~200には、送信ミス以外にYahoo!グループ画面から削除されているメールが3件(116, 123, 137)あるが、筆者手持ちのデータによっている。

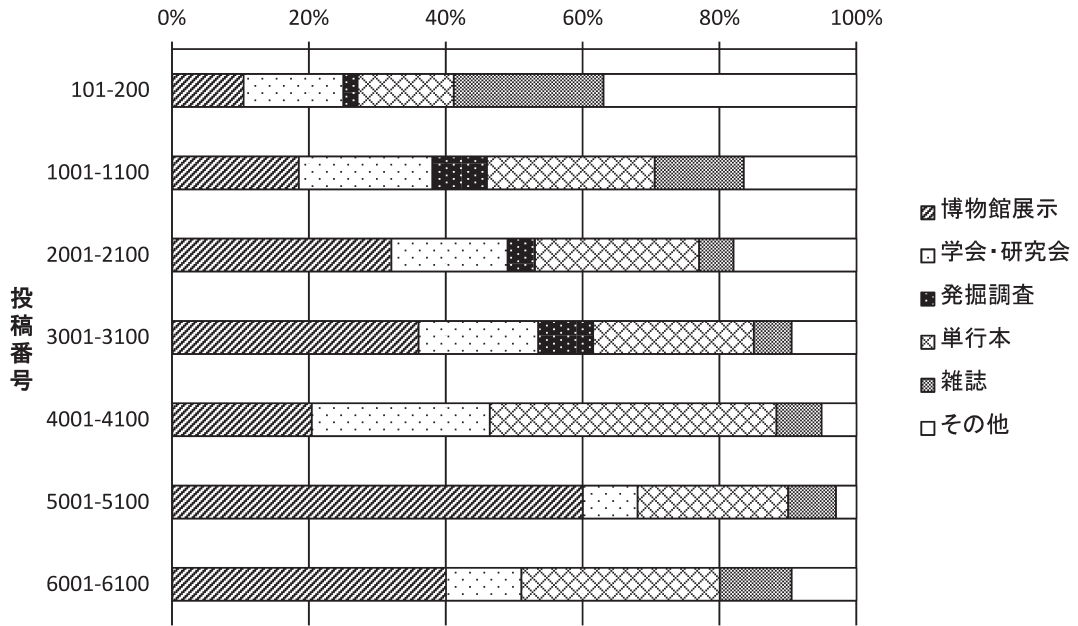


図1. 投稿内容の時期別推移

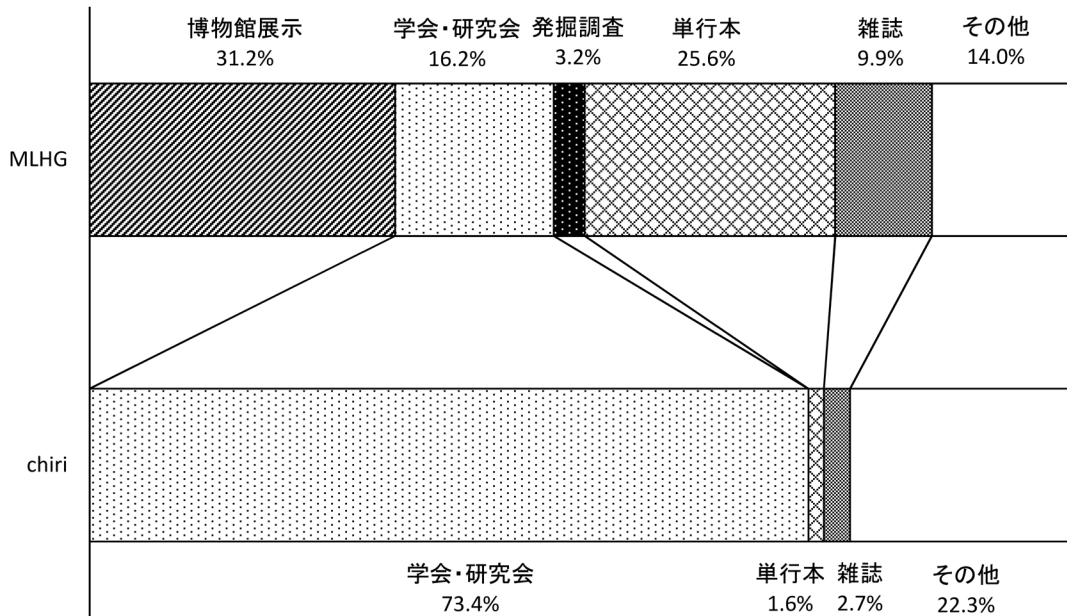


図2. MLHGとchiriの投稿内容の比較

稿の割合が増えており、「その他」は減少している。発掘調査関係の投稿もなくなっているが、抽出部分以外には見られ、皆無になったわけではない。

投稿内容を、地理学全般のメーリングリストであるchiriの最近の投稿約100件¹¹⁾と比較すると(図2)、違いが明瞭である。chiriでは70%以上が学会・研究会関係であり、単行本や雑誌

表3. メンバー別投稿数

投稿番号	メンバーA	メンバーB	メンバーC	メンバーD	その他	合計	投稿者実数
101～200	13	12	17	8	46	96	27
1001～1100	57	13	9	2	19	100	16
2001～2100	87	8	0	0	5	100	6
3001～3100	75	11	0	1	13	100	11
4001～4100	64	8	2	3	21	98	15
5001～5100	81	3	1	1	14	100	14
6001～6100	92	0	2	0	6	100	7
合計 (割合, %)	469 (67.6)	55 (7.9)	31 (4.5)	15 (2.2)	124 (17.9)	694 (100.0)	—

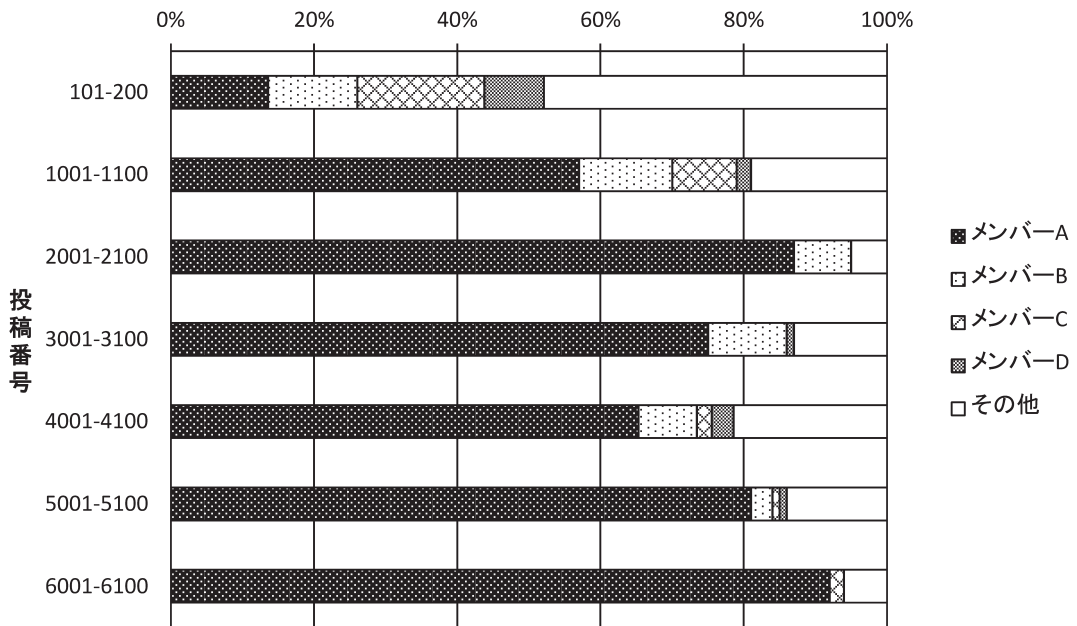


図3. 投稿メンバーの時期別推移

関係はほとんどなく、博物館展示の投稿はゼロである。出版物よりも、「その他」に含まれる人事の公募情報のほうが多い（8.5%）。chiriの投稿は、学会・研究会などのイベントの関係者が、行事のPR（参加・発表の呼びかけ）を半ば職務として行っているものが目立ち、単行本・雑誌関係のメールも、すべて著者か出版社によるものである。「その他」も含めて全体の8割以上は当事者・関係者による投稿である。これに対してMLHGは、そのような当事者によるメールもあるが、ほとんどは第三者からの

ボランティアな情報提供である。第1位の博物館展示関係の投稿も、100%近くは部外者によるものである。したがって、投稿内容は投稿者の研究関心に基づくものとなる。職務としての投稿とボランティアな投稿の割合の差異が、メーリングリストの投稿内容の違いによって表れてきていると言える。

次に、投稿をメンバー別に集計する。表3によれば、メンバーAの投稿が7割近くを占めており、2位のメンバーBは1割にも達しない。時期別推移を見ると（図3）、MLHG発足当初

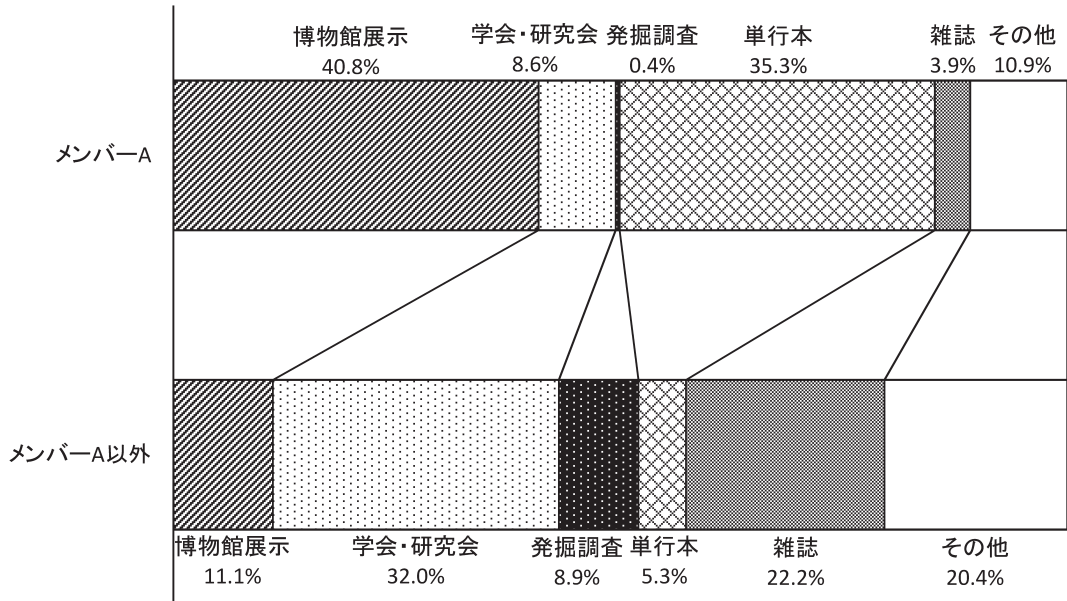


図4. メンバーAとそれ以外の投稿内容の比較

は投稿者に大きな偏りはなかったが、2年たつて投稿番号が1000番になると、メンバーAが半分以上を占めており、その後もAの割合が増加している。投稿者実数においても、MLHG発足当初は比較的多様であったが（これは、自己紹介が多かったことにもよる）、その後は一部のメンバーに投稿に限られ、ほとんどのメンバーがいわゆるROM（リードオンリーメンバー）になってきている。

投稿メンバーをchiriと比較すると、chiriでは94件の投稿を34人（投稿者実数）が行っており、最多の投稿者でも約12%、4位までの合計で約36%と多様である。特定の1メンバーの投稿に大きく依存している点はMLHGの特徴である。

一般的に、投稿内容の傾向は、メンバーAとメンバーA以外に分けて投稿内容を比較したものが図4である。これによれば、メンバーAは博物館展示関係が約41%を占め、次いで単行本紹介の約35%で、この二つで全体の約4分

の3になる。他方、メンバーA以外では、これら二つの占める割合は低く、逆に学会・研究会関係が約32%で最も多く（ほとんどは関係者による投稿）、次に雑誌紹介の約22%である。上述したMLHGの投稿内容の特徴は、投稿数の7割近くを占めるメンバーAの研究関心を反映したものになっていると言える。なお、時期別に見ると、メンバーAでは博物館展示関係の増加と学会・研究会関係の減少、メンバーA以外では学会・研究会関係の増加が指摘できる。図1で示される博物館展示関係の投稿割合の増加は、やはりメンバーAの投稿傾向の変化と対応していると言える。

IV. 今後の課題

MLHGはこれからも継続されるであろうが、これを今後の地理学史研究の対象として想定した場合、課題は、投稿などウェブ上の情報を、いかに記録として残すことができるかということである。上述のように、MLHGが利用して

いたYahoo!グループは2014年にサービスを停止し、過去の投稿などのデータを、サービス提供側サイトで見ることができなくなった。メンバーが過去の投稿をまとめて保存することは可能であったが、個々のemlファイルの集合で検索ができず、非常に利用しにくい状態である。

同じことは、他のメーリングリストやインターネット上の情報コミュニケーションにも当てはまる。更新頻度の低いウェブサイトなら保存も容易であろうが、刻々と情報発信されツイートの削除も容易なツイッターのようなもの場合、データはどのようにアーカイブ化されるのであろうか¹²⁾。筆者は、この分野の専門家ではないが、記録として残す何らかの方策がたてられることを念じて、稿を終えたい。

なお、現在のMLHGに関心のある方は、管理者の塚本氏に問い合わせをされたい(メーリングリストに登録するには、塚本氏に手続きをしてもらう必要がある)。

注

- 1) 2001年4月1日付けで「日本地理学会試行メーリングリスト開設のお知らせ」が出されている。
<http://www.ajg.or.jp/ajg/2001/04/post-25.html>
- 2) 1998年3月に立ち上げられている。
<http://camp.ff.tku.ac.jp/TOOL-BOX/JapanGers/geo.html>
- 3) MLHG立ち上げメンバーの名前は、準備グループ時代の投稿により特定できるが、本稿では挙げない。MLHGは、発足以来、現在に至るまで、加入者以外にメッセージは公開されておらず、誰がMLHGに関わっているかは個人情報と判断したためである。同じ理由で、メンバー別の分析においても、投稿者の個人名を出さないこととする。
- 4) 現在は削除されているが、ウェブサイトの

URLは下記のとおりであった。

<http://www.egroups.co.jp/group/mlhg/>

<http://groups.yahoo.co.jp/group/mlhg/>

- 5) Googleグループ移行後しばらくは、Yahoo!グループと併用された。GoogleグループでのMLHGのウェブサイトURLは次のとおりである。
<http://groups.google.com/group/ml-HistoricalGeography>
- 6) 管理者の塚本氏によると、Googleグループに移行した後、2014年12月末現在の登録アドレス数は164(配信エラー11を含む)で、複数のアドレスを登録しているメンバーが10人程度いるとのことである。Googleグループでは、Yahoo!グループと違って、登録アドレス数は管理者しか把握できない。
- 7) MLHGでは、9項目の「申し合わせ」の承認を前提に、「歴史地理学に関心のある人であれば、どなたでも自由に参加することができます」としている。「申し合わせ」は、準備グループにより検討され、作成された。
- 8) ただし、Yahoo!グループ時のサイトへのリンクで、現在はリンク切れになっている。
- 9) 『地理』47-4, 2002, 130頁の「ちょっとお知らせ」欄。
- 10) 厳格なルールを作成するのではなく、なんとなく見えてきた結論を、そこに至る議論とともに提示するという、ゆるやかなまとめ方をしている。
- 11) 投稿番号: 801~900(投稿日: 2013年6月10日~2014年10月11日)のメールのうち、スパムメールと不明のもの6件(843, 844, 862~865)を除く94件を分析対象とした。
- 12) 米国議会図書館では、2010年からツイッ

ターの全公開ツイートを保存しているというが、データが巨大すぎて、研究者への提供には至っていないということである（菊池 2013）。

文 献

- 菊池信彦 2013. 米国議会図書館のTwitterアーカイブ, その可能性と課題, 国立国会図書館カレントアウェアネス-E 230: E1385.
<http://current.ndl.go.jp/e1385>
- 長谷川孝治 2007. 学会展望: 地図. 人文地理 59(3): 57-59.
- 二村太郎・荒又美陽・成瀬厚・杉山和明 2012. 日本の地理学は『銃・病原菌・鉄』をいかに語るのか—英語圏と日本における受容過程の比較検討から—, *E-journal GEO* 7(2): 225-249.

**Internet Communications in the Geography Community:
An analysis of the posts on the Japanese Mailing List of Historical Geography**

Masayasu ODA

This paper overviews the Japanese Mailing List of Historical Geography (MLHG) as an example of the internet communications in the geography community, and makes an analysis of its posts. MLHG was generated in January of 2002 by several young historical geographers. The number of subscribers, or e-mail addresses, was 153 as of April of 2014. The posts amount to about 6300 in number from its start to March of 2014. The results obtained by the analysis of extracted 694 e-mails are as follows:

Information about museum exhibitions is most frequently posted, accounting for more than 30 percent. Other common content includes posts on new books, upcoming meetings, and the latest issues of the journals. Compared with the mailing list “chiri,” which is run by the Association of Japanese Geographers and covers Japanese geography in general, many posts in “chiri” are official or semi-official announcement of events like academic conferences from the persons concerned. Meanwhile, most e-mails in MLHG are voluntary provision of information and are based on the research interests of the posters. Characteristically, MLHG owes a lot of posts to one specific member, and has a tendency to reflect his interest.

When we regard internet communications including MLHG as a future study subject of history of geography, the task to be solved is how to archive web data.

Keywords: historical geography, mailing list, internet, archiving